『新版　完全講義　民事裁判実務の基礎［入門編］〔第２版〕』

目　　次

・プロローグ……1

第Ⅰ部　基本構造・訴訟物

第１講　民事訴訟の基本構造……6

Ⅰ　民事訴訟の基本構造……6
1　総　論……6
〔図１〕　民事訴訟の基本構造……7
2　具体例での検討……7
【書式１】　訴状（〈Case ①-1〉）……8
Ⅱ　訴訟物レベル……10
1　請求の趣旨および原因……10
2　訴訟物……12
【書式２】　答弁書（〈Case ①-1〉）……13
3　請求の趣旨（訴訟物）に対する答弁……14
Ⅲ　主張レベル……15
1　請求原因……15
2　請求原因に対する認否……16
3　立証責任（証明責任）……19
4　抗　弁……20
5　請求原因の否認と抗弁の違い……20
6　主張責任……21
Ⅳ　立証レベル……21
1　間接事実・証拠……21
〔図２〕　民事訴訟の基本構造の具体例（〈Case ①-1〉）……23

2　立証レベルのポイント……24
Ⅴ　まとめ……25

第2講　訴訟物……27

Ⅰ　旧訴訟物理論と新訴訟物理論……27
Ⅱ　既判力の客観的範囲……29
Ⅲ　処分権主義……32
1　訴訟物の選択……32
2　選択的併合と予備的併合……34
Ⅳ　訴訟物の特定と個数……36
1　訴訟物の特定……36
(1)　債権的請求権の場合……36
(2)　物権的請求権の場合……37
2　訴訟物の個数……37
3　その他の留意点……38
Ⅴ　債務不存在確認請求と給付請求……39
Ⅵ　演習問題……39
Coffee Break　自転車に乗る練習……中村由梨・42

第Ⅱ部　要件事実

第3講　要件事実総論……46

Ⅰ　売買契約を例に……46
1　請求の趣旨……47
2　訴訟物……47
3　請求原因……47
(1)　実体法上の成立要件と請求原因……48

(2)　要件事実の具体的内容……49
(3)　主張している事実と証拠により認定できる事実との同一性……50
4　権利（請求権）の発生と判決の基準時……51
Ⅱ　要件事実とは……52
1　要件事実の意義……52
2　主張・立証責任の分配と要件事実……52
(1)　立証責任……52
(2)　主張責任……53
(3)　主張・立証責任の分配（法律要件分類説）……53
3　抗弁と否認……55
(1)　否認と抗弁の区別……55
(2)　抗弁の種類……56
4　再抗弁……57
5　具体的検討……57
〈表１〉　要件事実の整理（同時履行の抗弁）……58
6　要件事実の重要ポイント……58
(1)　必要最小限の事実と本質的要素の抽出……58
(2)　実体法上の要件の抽出と主張・立証責任の分配……59
(3)　事実と評価の峻別……60
(4)　時的因子と時的要素……60

第４講　売買に関する請求１……65

Ⅰ　条件・期限……65
Ⅱ　弁　済……66
1　主張の位置づけ……66
2　要件事実の具体的内容……66
Ⅲ　一部請求……68
1　訴訟物……68
2　一部請求と弁済の抗弁……69

3　主張自体失当……71
Ⅳ　消滅時効……72
1　主張の位置づけ……72
2　実体法上の成立要件……72
(1)　①「権利行使可能」の要件……73
〔図３〕　２つの消滅時効（民法166条１項１号が適用される場合）……73
(2)　②「時効期間」……74
(3)　③「援用の意思表示」……74
3　消滅時効の要件事実……76
4　消滅時効の抗弁に対する再抗弁……77
(1)　期限の定め（再抗弁１）……77
(2)　時効更新（再抗弁２）……77
(3)　時効更新に対する更新解消時からの消滅時効（別の抗弁）……78
〔図４〕　消滅時効（〈Case ④-4〉）……79
5　民法改正の留意点……79
Ⅴ　同時履行の抗弁……79
1　主張の位置づけ……80
2　実体法上の成立要件……80
3　要件事実の具体的内容……81
4　抗弁相互の関係……82
5　再抗弁……83
(1)　先履行の合意（再抗弁１）……83
(2)　反対給付の履行（再抗弁２）……83
〔図５〕　同時履行の抗弁権（〈Case ④-6〉〈Case ④-7〉）……84
Ⅵ　代物弁済……85
1　主張の位置づけ……85
2　要件事実の具体的内容……85
3　代物弁済の法的性質との関係……86
Ⅶ　民法総則に関する抗弁……88
1　通謀虚偽表示の抗弁……88

2　詐欺の抗弁……89
3　錯誤の抗弁……90
(1)　主張の位置づけと要件事実の具体的内容……91
(2)　重過失（再抗弁）……92
(3)　相手方の悪意または重過失、双方錯誤……93
(4)　第三者に対する効力……94
(5)　まとめ……94
〔図６〕　錯誤（〈Case ④-11〉）……95
4　無効・取消しの効果……95
Ⅷ　規範的要件……95
1　規範的要件の意義……95
2　規範的要件と主要事実……96
3　評価根拠事実と評価障害事実の関係……97
4　評価根拠事実と評価障害事実の摘示……98
Ⅸ　黙示の意思表示……100
1　黙示の意思表示と要件事実……100
2　規範的要件との違い……101

第５講　売買に関する請求２……102

Ⅰ　代　理……102
1　代理とは……102
2　有権代理……103
(1)　訴訟物……103
(2)　要件事実の具体的内容……103
3　追認（代理権授与に代えて）……105
4　代理権濫用……107
(1)　主張の位置づけ……107
(2)　要件事実の具体的内容……108
5　表見代理……108

(1)　代理権授与表示による表見代理……109
(2)　権限外の行為の表見代理……112
〈表２〉　善意・悪意……114
6　無権代理人に対する請求……117
(1)　請求原因……118
(2)　抗　弁……119
(3)　再抗弁……120
Ⅱ　相　殺……121
1　主張の位置づけ……121
2　実体法上の成立要件……121
(1)　相対立する債権の存在……122
(2)　両債権が同種の目的であること……122
(3)　両債権が弁済期にあること……123
(4)　同時履行の抗弁権との関係……123
(5)　債務の性質が相殺を許さないものであること……125
(6)　相殺の意思表示……125
3　相殺の要件事実……126
4　再抗弁……127
(1)　相殺禁止の意思表示……127
(2)　不法行為債権等を受働債権とする相殺……127
5　相殺の抗弁の判断順序……128
6　時効完成と相殺……128
7　相殺の効果……129
8　一部請求と相殺……130
Ⅲ　債務不履行解除……131
1　主張の位置づけ……132
2　実体法上の成立要件……132
(1)　①「履行遅滞」……133
(2)　②「催告解除」……135
3　催告による解除の要件事実……136

4　催告による解除の抗弁に対する再抗弁……137
(1)　不履行が軽微であるとき（民541条ただし書）……138
(2)　履行不能の再抗弁……138
(3)　弁済の提供の再抗弁……139
5　無催告解除・債権者の責めに帰すべき事由……140
Ⅳ　危険負担……142
Ⅴ　瑕疵担保責任……144

第6講　貸金・保証に関する請求……146

Ⅰ　消費貸借契約に基づく貸金返還請求……146
1　訴訟物……146
2　請求原因……147
(1)　実体法上の成立要件……147
(2)　要件事実の具体的内容……147
3　諾成契約としての消費貸借……151
Ⅱ　保証債務履行請求……151
1　保証に関する基礎知識……151
2　訴訟物……152
3　請求原因……153
(1)　要件事実の具体的内容……153
(2)　連帯の約定……153
4　抗　弁……156
(1)　主債務についての抗弁（抗弁１）……156
(2)　消滅時効の抗弁（抗弁２）……156
(3)　弁済拒絶（相殺、抗弁３）……158
(4)　弁済拒絶（取消権・解除権、抗弁４）……159
5　保証人保護方策……160
(1)　個人保証の制限……160
(2)　契約締結時の情報提供義務……162

(3)　主たる債務の履行状況に関する情報の提供義務……164
(4)　主たる債務者が期限を喪失した場合における情報の提供義務……164
Ⅲ　準消費貸借契約に基づく貸金返還請求……164
1　訴訟物……165
2　請求原因……165
(1)　実体法上の成立要件……165
(2)　要件事実の具体的内容……165
3　抗　弁……167
(1)　原告説の場合……167
(2)　被告説の場合……167
Coffee Break　法科大学院生の本分……渡邊奈美・168

第7講　不動産明渡しに関する請求……169

Ⅰ　土地明渡請求……169
1　訴訟物……169
2　請求原因……171
(1)　実体法上の成立要件……171
(2)　要件事実の具体的内容……172
3　権利自白の成立時期と典型的な攻撃防御方法の構造……175
(1)「X もと所有→所有権喪失」型……175
(2)「A もと所有→対抗要件」型……180
〔図7〕「A もと所有→対抗要件」型……188
(3)「現所有→占有権原」型……189
〔図8〕「現所有→占有権原」型……190
Ⅱ　建物収去土地明渡請求……191
1　請求の趣旨……191
2　訴訟物……192
(1)　物権的請求……192
(2)　建物収去と土地明渡しの関係……192

(3)　訴訟物の個数……194
3　請求原因……194
(1)　X 所有の要件 ……194
(2)　Y 占有の要件 ……194
4　抗弁（建物所有権喪失）……196
5　再抗弁（登記名義保有）……197
〔図 9〕　建物収去土地明渡請求……199
Ⅲ　建物退去土地明渡請求……200
1　請求の趣旨……200
2　訴訟物……201
3　請求原因……201
4　抗　弁……202

第 8 講　不動産登記に関する請求……205

Ⅰ　総　論 ……205
1　登記請求権……205
2　不動産登記の基礎知識……206
(1)　一般的知識……206
【書式 3】　登記識別情報通知書……207
(2)　登記事項証明書の見方……208
(3)　登記事項証明書の読み方……209
【書式 4】　登記事項証明書 ……210
(4)　請求の趣旨と判決主文の記載方法……212
(5)　不実登記から真実の登記へ戻す方法……212
Ⅱ　所有権移転登記抹消登記請求 ……213
1　請求の趣旨……213
2　訴訟物……213
3　請求原因の基本的な構造……214
(1)　請求原因事実の構成と登記の推定力……214

(2)　要件事実の具体的内容……216
(3)　各種推定規定……216
4　紛争類型ごとの検討……219
Ⅲ　所有権移転登記請求……222
1　請求の趣旨……223
(1)　所有権移転登記請求における請求の趣旨……223
(2)　登記原因と請求の趣旨の記載……223
2　訴訟物……224
3　攻撃防御方法の構造……225
(1)　抹消に代わる所有権移転登記請求（〈Case ⑧-3〉）……225
(2)　取得時効を原因とする所有権移転登記請求（〈Case ⑧-4〉）……225
Ⅳ　抵当権設定登記抹消登記請求……231
1　請求の趣旨……231
2　訴訟物……232
3　請求原因……232
4　抗弁（登記保持権原の抗弁）……233
(1)　主張の位置づけ……233
(2)　要件事実の具体的内容……233
5　再抗弁……236
Ⅴ　登記上利害関係を有する第三者に対する承諾請求……236
1　請求の趣旨……237
2　訴訟物……239
(1)　Y に対する請求……239
(2)　Z に対する請求……239
(3)　訴訟物の個数……239
3　請求原因……240
(1)　Y に対する請求……240
(2)　Z に対する請求……240
4　抗弁以下（Z に対する請求）……241
(1)　所有権喪失（抗弁）……241

(2)　通謀虚偽表示（再抗弁）……241

第9講　賃貸借に関する請求……243

Ⅰ　賃料請求……243
1　訴訟物……243
2　請求原因……243
(1)　賃貸借契約の成立要件……243
(2)　要件事実の具体的内容……244
Ⅱ　建物明渡請求……246
1　訴訟物……246
(1)　訴訟物の選択……246
(2)　終了原因との関係……246
(3)　更新との関係……247
2　基本的な請求原因……247
3　終了原因ごとの検討……248
(1)　期間満了……248
〔図10〕　期間満了による終了……253
(2)　解約申入れ……253
〔図11〕　解約申入れ……256
(3)　賃料不払いによる債務不履行解除……256
(4)　無断転貸による解除……262
〔図12〕　無断転貸による解除……266
Ⅲ　留置権……266
1　実体法上の成立要件……266
2　要件事実の具体的内容……267
Ⅳ　転借人に対する請求……268
1　転借人に対する請求……268
〔図13〕　占有権原の抗弁の要件事実……268
2　合意解除による転貸借の終了……269

Ⅴ　定期建物賃貸借 …… 270
1　実体法上の成立要件 …… 270
2　要件事実の具体的内容 …… 271
Ⅵ　敷金返還請求権 …… 272
1　請求原因の具体的内容 …… 272
2　抗弁の具体的内容 …… 274

第10講　動産・債権譲渡等に関する請求 …… 276

Ⅰ　動産引渡請求 …… 276
1　訴訟物 …… 276
2　請求の趣旨 …… 277
3　請求原因 …… 277
4　攻撃防御方法の類型ごとの検討 …… 277
(1)「X もと所有→所有権喪失」型（即時取得による所有権喪失の抗弁）…… 277
〔図14〕　即時取得の要件事実 …… 281
(2)「A もと所有→対抗要件」型 …… 282
(3)「X 現所有→占有権原」型 …… 284
(4)　請求原因における即時取得 …… 284
Ⅱ　債権譲渡 …… 284
1　訴訟物 …… 286
2　請求原因 …… 286
3　抗弁以下 …… 288
(1)　譲渡制限特約（抗弁１） …… 288
〔図15〕　譲渡制限特約 …… 291
(2)　譲渡人について生じた事由に基づく抗弁（抗弁２） …… 292
(3)　債務者対抗要件の抗弁 …… 295
〔図16〕　債務者対抗要件 …… 297
(4)　第三者対抗要件の抗弁 …… 297
〔図17〕　第三者対抗要件 …… 301

(5)　債権喪失の抗弁……302
〔図18〕　債権喪失の抗弁……306
(6)　二重譲受人に対する弁済の抗弁……307
(7)　債権譲渡と相殺……311
Ⅲ　受領権者としての外観を有する者に対する弁済……311
1　主張の位置づけ……312
2　要件事実の具体的内容……313
Ⅳ　相　続……314
1　要件事実の具体的内容……314
2　単独相続の主張・立証責任……314
Ⅴ　不法行為……316
1　民法709条……317
2　使用者責任（民715条）……318
Coffee Break　Ｊリーガーから弁護士へ……八十祐治・319

第Ⅲ部　事実認定

第11講　事実認定総論……324

Ⅰ　概　説……324
1　事実認定の対象……324
2　事実認定の方法……325
3　証拠方法……326
(1)　文書送付嘱託……326
(2)　調査嘱託……326
(3)　書面尋問……326
(4)　鑑　定……327
(5)　弁論の全趣旨……327
(6)　証拠能力……327

Ⅱ　証明度 …… 328
1　高度の蓋然性 …… 328
2　具体例の検討 …… 329
(1)　ルンバール事件 …… 329
(2)　バレーボール事件 …… 329
(3)　小　括 …… 330
3　刑事事件との比較 …… 330
4　解明度 …… 332
Ⅲ　経験則 …… 334
1　意　義 …… 334
2　役　割 …… 334
Ⅳ　直接証拠と間接証拠 …… 335
1　意　義 …… 335
〔図19〕　直接証拠と間接証拠 …… 335
2　具体例 …… 336
(1)　不法行為の要件事実 …… 337
(2)　A、B、C の証言 …… 337
〔図20〕　事実認定の構造 …… 338
(3)　間接事実による主要事実の推認 …… 339
〔図21〕　間接事実による主要事実の推認 …… 339
Ⅴ　本証と反証 …… 341
Ⅵ　判断の順序 …… 341
1　原　則 …… 341
2　留意点 …… 343

第12講　書　証 …… 344

Ⅰ　書証の申出 …… 344
Ⅱ　文書の分類 …… 344
1　公文書と私文書 …… 344

2　原本、写し（謄本）、正本……345
(1)　原　本……345
(2)　写し・謄本……345
(3)　正　本……345
(4)　区別の重要性……345
Ⅲ　形式的証拠力（文書の成立の真正）……346
【書式５】　甲第１号証：借用証書（〈Case ⑫-1〉、〈Case ⑫-2〉）……346
1　文書の作成者……347
2　成立の真正についての認否……348
(1)　署名文書……348
(2)　押印文書……349
【書式６】　押印文書：借用証書（〈Case ⑫-1〉、〈Case ⑫-3〉）……350
3　文書の提出と認否の記録化……352
【書式７】　書証目録……352
4　成立の真正についての立証……353
(1)　成立を認めている場合……353
(2)　文書の成立の真正を争っている場合……353
〔図22〕　２段の推定……356
5　推定が覆る場合……356
(1)　１段目の推定（事実上の推定）が覆る場合……356
(2)　２段目の推定（民訴228条４項）が覆る場合……360
6　実務の実情……361
7　その他の問題点……362
(1)　筆跡が争われている場合（〈Case ⑫-2〉の③のケース）……362
(2)　印鑑による違い……362
(3)　文書の個数……363
(4)　代理文書……364
【書式８】　代理文書……364
Ⅳ　実質的証拠力……366
1　実質的証拠力の意義……366

2　処分証書と報告文書……367
(1)　処分証書と報告文書の違い……367
(2)　処分証書の実質的証拠力……369
(3)　報告文書の実質的証拠力……369
(4)　処分証書と報告文書の区別は必要か……370
(5)　類型的信用文書……370
(6)　審理の結果（処分証書と報告文書の違い）……371
3　実務の実情……372
4　本来存在すると考えられる書証が存在しない場合……374
5　陳述書……375
V　まとめ……376

第Ⅳ部　民事保全・執行

第13講　民事保全・執行……380

I　民事保全……380
1　総　論……380
〔図23〕　民事保全の種類……380
2　仮差押え……381
(1)　仮差押えの対象……381
【書式９】　不動産仮差押命令申立書……381
(2)　申立ての理由……384
(3)　効　力……384
3　仮処分……385
(1)　係争物に関する仮処分……385
【書式10】　登記事項証明書・権利部（甲区）……387
(2)　仮の地位を定める仮処分……389
4　担　保……390

Ⅱ　民事執行……391
1　債務名義……391
2　請求異議……391
(1)　訴えの対象……391
(2)　異議事由の主張・立証責任……391
3　第三者異議……392

第Ⅴ部　法曹倫理

第14講　法曹倫理１……396

Ⅰ　総　論……397
1　法曹倫理の必要性……397
2　弁護士倫理の基本規程……397
3　弁護士役割論……399
Ⅱ　事件の受任……399
1　受任義務……399
2　非弁護士との提携……401
3　依頼者に対する説明義務……402
(1)　説明義務……403
(2)　不当訴訟……404
(3)　勝訴の見込みがない場合……404
(4)　〈Case ⑭-4〉の検討……405
Ⅲ　事件の処理……405
1　依頼者の意思の尊重……405
(1)　和解における依頼者の意思（〈Case ⑭-5〉１の検討）……408
(2)　弁護士の裁量（〈Case ⑭-5〉２の検討）……409
2　裁判手続の遅延と依頼者の意思……411
Ⅳ　秘密保持義務……412

1　弁護士法23条と職務基本規程23条……413
〈表３〉　弁護士法23条と職務基本規程23条の異同……413
(1)　非限定説……414
(2)　限定説……414
(3)　折衷説……414
(4)　検　討……414
2　〈Case ⑭-8〉の検討……415
Ⅴ　真実義務……419
Ⅵ　相手方との関係……422
1　〈Case ⑭-11〉設問(1)……423
2　〈Case ⑭-11〉設問(2)……424
3　参考事例……424
Ⅶ　他の弁護士との関係……425

第15講　法曹倫理２……427

Ⅰ　利益相反……427
1　利益相反事例……427
(1)　第１事例……427
〔図24〕　職務を行い得ない場合の類型……431
(2)　第２事例……433
(3)　第３事例……433
(4)　第４事例……435
(5)　第５事例……437
(6)　第６事例……438
2　遺産分割……439
(1)　〈Case ⑮-7〉設問(1)……439
(2)　〈Case ⑮-7〉設問(2)……440
(3)　〈Case ⑮-7〉設問(3)……440
3　遺言執行者……441

4　破産管財人……443
Ⅱ　弁護士報酬……444
1　弁護士報酬……444
(1)　立替え……445
(2)　報酬の額……446
2　預り金……447
Ⅲ　辞　任……448
1　〈Case ⑮-12〉設問(1)……448
2　〈Case ⑮-12〉設問(2)……449
Ⅳ　組織内弁護士……450
1　〈Case ⑮-13〉設問(1)……451
2　〈Case ⑮-13〉設問(2)……452
3　〈Case ⑮-13〉設問(3)……452
Ⅴ　共同事務所……453
1　共同事務所所属の各弁護士に当事者関係にある者からそれぞれ事件依頼があった場合の対応……453
2　共同事務所の所属弁護士の受任事件にかかわる情報に接した弁護士の対応……455
(1)　〈Case ⑮-15〉設問(1)……456
(2)　〈Case ⑮-15〉設問(2)……457
Coffee Break　インハウスはどう？……正木紘子・457

第Ⅵ部　演習問題

第16講　演習問題……460
Ⅰ　演習問題1……460
1　最初のポイント……465
2　訴訟物レベル……465

3　主張レベル……465
(1)　請求原因……465
(2)　抗　弁……467
(3)〔設問１〕(2)……468
4　立証レベル……469
5　結　論……469
〔図25〕　ブロック・ダイアグラム（演習問題１）……470
Ⅱ　演習問題２……474
1　〔設問１〕……479
(1)　保　全……479
(2)　訴訟物……479
(3)　要件事実……480
(4)　他の構成……480
2　〔設問２〕……481
(1)　２つの抗弁……481
(2)　抗弁ⓐ（対抗要件具備による所有権喪失の抗弁）……481
(3)　抗弁ⓑ（即時取得による所有権喪失の抗弁）……482
3　〔設問３〕……482
(1)　問１……482
(2)　問２……483
・エピローグ……486

・資料（弁護士職務基本規程）……490
・事項索引……503
・判例索引……509
・条文索引……512
・著者略歴……515